

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171500040		
法人名	社会福祉法人 萱垣会		
事業所名	中津川市グループホームまごころ		
所在地	岐阜県中津川市神坂3835-204		
自己評価作成日	平成30年7月31日	評価結果市町村受理日	平成30年10月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kan=true&JigyosyoCd=2171500040-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成30年8月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>ご利用者様一人ひとりのできる事を職員が理解、共用できるように努め、場面場面に活躍する事でやりがいや楽しみに繋げるように支援をしている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、岐阜県の介護人材育成事業「グレード2」の認定を受けている。管理者は、働きやすい職場環境づくりに取り組みながら、独自の人材育成方法で、職員の多様性や潜在能力を引き出し、介護の質を高める努力を続けている。苦情解決の仕組みでは、第三者委員を設置し、地域の有識者を選任するなど、先駆的な取り組みを行っている。職員は、利用者一人ひとりの出来る力を引き出しながら、地域の一員として、共に諸行事に関わり、利用者が、楽しく穏やかな生活が送れるよう支援している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「寄り添い、見守り、共に暮らす」を理念として継続。言葉の意味をかみしめながら毎朝唱和しサービスに繋げるよう努めている。	事業所の基本理念を、毎朝唱和している。それらを、具体的な行動計画にまとめ、全職員で共有し実践している。利用者には、できる力を発揮してもらい、穏やかな生活が送れるように支援をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事への参加。管理者は地域の会合への参加もしており、運営推進会議の地域の方に参加して頂きながら交流に努めている。	自治会の役員や地域住民と日常的に交流している。地域の文化祭には、利用者の作品を出展したり、地域の防災訓練、夏祭りにも参加している。神坂区の会合には、管理者が出席して、事業所の役割を発信している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のボランティアの方々には行事に参加して頂きながら利用者の方と関わり、認知症についての理解、支援の方法を伝えるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族、地域の方々、行政、消防の方々に参加して頂き、事業報告、実績報告、他施設見視察研修、サービス評価事業を行い、皆様のご意見を頂きながらサービスの向上に努めている。	運営推進会議では、認知症の理解を深める話し合いや、職員のスキルアップ制度の導入、新しいレクリエーションの紹介などを行っている。また、出席者の多様な提案を受け、それらをサービスの向上に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者は常日頃、市の担当者と連絡をとりあい何事も相談し事業にあたっている。又、市の介護相談員の受け入れをしており、意見を頂きながらサービスの向上に努めている。	市の担当者には、定期的に運営の実情を伝え、意見交換を行いながら、協力関係を築いている。また、各種申請書の手続きや困難事例を相談し、助言も得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0。以前より身体拘束廃止に向けての委員会活動にとりこんでいる。今年度より身体拘束の勉強会の義務づけにて、改めて指針の確認、職員間への周知徹底に努めている。	身体拘束廃止委員会を設けて、指針と現状を再確認し、周知を図っている。また、年間計画の中で、勉強会も行っている。戸外に出たい人には、職員がさりげなく寄り添いながら支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修への積極的な参加、研修での復命を職員間にて周知している。又事業所内で委員会を設け虐待防止に努めている。		

岐阜県 中津川市グループホームまごころ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	過去に運営推進会議において権利擁護の話を聞いたり、成年後見制度の話をして頂き、折を見てパンフレットの配布を行い質問等があれば対応をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時に契約書を見て頂きながら一つ一つ説明をし納得して頂き契約を行っている。又家族の質問、不安な点を尋ね、ご理解して頂いている。改定等がある場合には文書にてお伝えをし、疑問な点があれば説明対応をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人独自のサービス評価事業、又満足度調査を定期的に設け、第三者委員、他の事業所のケアマネ等による聴き取りにて、家族、ご本人の意見がサービス繋がるよう努めている。又その意見を運営推進会議にて公表。改善に向けて取んでいる。	利用者の意見は、介護相談員から聞き取ったり、毎月の茶話会でも把握している。家族の意見は、事業所独自に実施している満足度調査や第三者の苦情解決の仕組みで把握し、それらを検討しながら、改善につなげている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会の中で、職員の意見や提案を伝える機会を設け、改善に向けての取り組みをしている。	職員の意見を聞く定例会議がある。気づきやヒヤリハット、骨折予防、身だしなみ、言葉づかいなど、様々な意見や提案を話し合い、利用者が安心して過ごせるように取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の状況を考慮した労働の体制状況とし、業務のなかでは、それぞれにアドバイスをしながら仕事への意欲向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修の案内、参加が出来るように職員全員に促している。又、エリア内での研修も定期的開催している。個々での能力に合った研修の推奨も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のGH部会にての研修会に積極的に参加をし各事業所の職員との交流や、意見交換をしており、サービスの向上につながる事は参考にさせて頂いている。岐阜県のGH協議会にの研修会なども参加し、職員の意識向上に繋げられるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申し込みの内容を理解し、入所検討にて利用に繋げる段階にてご本人、家族の思いや、不安な事などゆっくりと話を聞き、安心してサービスを受けて頂ける様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスに至るまでの家族の思いや悩み、要望などを話して頂ける時間を設け、不安なく過ごして頂けるよう支援に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の考えを理解し、必要と支援や他のサービス利用の対応にも努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はいつも利用者と共に生活をしている気持ちで接しており、その方の「出来る場面」を大切に暮らしを共にするもの同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活の中での様子や体調、又事業所での行事などの連絡や相談を常にしている。家族が出来る事、職員ができる事など、ご本人と家族との関係を大切にしながら家族の負担が多くならないよう協力して頂ける場面作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	在宅での知人、関わっていた方との関係を継続できる様、面会や外出が気持ちよく出来るような働きかけに努めている。医療の面でも今までの顔なじみの主治医との関わりを継続し通院や往診をして頂いている。	地域のイベントに参加して知人に出会っている。訪れるボランティアや美容師、医師、移動販売員、更に、併設の特別養護老人施設の入所者とも交流し、新たな馴染みの関係が生まれている。馴染みの場所へは、家族の協力を得ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂や、ソファの座る場所、一人ひとりの役割が途切れない様に利用者同士の様子を見ながらより良い関係が保てるよう職員間で情報を共有しながら支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても家族、本人との関係を大切にし、気軽に立ち寄って頂いたり、相談などにも応じる旨を伝えている。新しい生活の場への面会や情報提供にも努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月、一人ひとりに「したい事や行きたい所」など意見を聞く「茶話会」を開催。そこでの意見を行事に取り入れている。又ご本人の意向を介護計画に取り入れ、聴き取りが出来ない方は様子などから家族と相談しながら検討している。	茶話会を毎月開催し、一人ひとりの思いを聞いている。会話が困難な人は、問いかけの反応から汲み取り、家族とも情報を交換している。趣味や生活習慣なども把握して、利用者の希望を暮らしに活かす支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にこれまでの生活、馴染みのある事項など本人、家族共に聞き、介護計画の中に取り組みるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間で、利用者一人ひとりの様子、できる事などの意見交換または共有し、その方の持つ力を継続しながら生きいきとした生活が出来るように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月モニタリングを行っており、そこで出た課題を家族さんに伝え、意見を伺いながら介護計画に繁栄させている。	介護計画は、個別のニーズに応えながら、家族の意見も聴き、担当者を中心に話し合い作成している。利用者が出来るだけ元気に、自分らしく日々を過ごせるよう自立を支え、状態変化があれば、その都度、見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	まごころサービス実施表、又は業務日誌、担当者ごとでのケース記録に日々の様子を記録し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々に出てくるニーズに対して各担当者会などを開催し、福祉用具の検討や、行事の実施に対してボランティアの協力など家族に相談しながら支援している。		

岐阜県 中津川市グループホームまごころ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員の慰問の受け入れ、や併設する特養での五感、その他の行事の参加を促したり、地域での行事へのボランティア協力の元参加や展示会の見学など様々な場面で地域の資源を生活の中に取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅時からのかかりつけ医への通院または往診に来て頂いたり、症状の進行など家族と相談しながらの専門医への受診への支援をしている。	個々に、在宅時からのかかりつけ医を継続している。家族が受診に同行出来ない時は職員が代行したり、協力医が対応し、受診結果は家族と共有している。緊急時には、市民病院のドクターカーを要請することもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝のバイタルの測定等で常に利用者の健康をチェックしている。異常がある時には併設する特養の看護師に相談し早期の対応をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	受診時より家族と共に職員も同行し状態の把握、入院中の経過を知るための面会や医療機関との情報交換にも努め、担当医、主治医、家族と相談しながら本人の精神的不安にならない様、出来る限り早めの退院ができるように対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期の対応として早い段階にて家族の意向を伺い、医療機関の協力がどこまで可能か、又、家族、職員(職員全員)のできる事などを話し出来る限りの支援が出来るように支援している。特養への入所を希望される方への申し込み支援なども行っている。	重度化・終末期の方針があり、本人・家族の意向を尊重しながら、早い段階から家族と話し合っている。最後まで住み馴れたところという希望が多く、併設の老人施設への移転も支援している。	看取りの実績を重ねているが、看護師の配置が課題である。医療連携を整え、利用者・家族の安心が得られるように期待をしたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年2回の救急法の講習会をエリア内で開催しており多くの職員が参加できるようにしており参加した職員会にて復命をしてもらい緊急時の対応ができるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設の特養、地域、地元消防団との合同の訓練(年1回)2ヶ月に1回の避難訓練や非常食の点検確保。地域の方に繋がる非常通報装置の設置や連絡網など災害に備えている。土砂災害の訓練も年1回行っている。	防災訓練計画書を消防署に提出し、地域と法人合同の災害訓練を実施している。また、自主訓練では、地震や土砂災害、夜間の避難も想定して実施している。連絡網には、区長や消防団長、近隣者も含められており、地域の協力が得られる体制である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格の尊重、生活環境、出来る事など職員全体で共有し、まごころでの生活を生き活きと過ごせるよう、プライバシーをそこねない言葉かけや対応している。	職員は、利用者の生活歴や習慣を尊重し、安易に否定したり、不安を与えることのないよう努めている。また、声かけの際も馴れ合いにならないよう、言葉遣いに気をつけ、居室へは、プライバシーを損ねないよう、許可を得て入室している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	季節の話題提供をしながら自然に利用者の希望を聞きだし機会を設け実施につなげている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の利用者さんの体調に合わせての生活の支援。何事に対しても声を掛けながらの行動に心懸けている。趣味ややりたい事など、その人らしい暮らしができるよう希望に添って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時、更衣時などにはその人らしい身だしなみが出来るよう本人に問いかけて服を選んだりして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を立てる際に利用者さんに声を掛けながら立てたり、食事作りのときの味見をしてもらいながら利用者と一緒に味付けや盛り付けに心懸けている。	利用者一人ひとりが役割を持って、献立作り・味付け・盛り付けから片付けまで、職員と一緒に、出来る人が出来る事を生き生きと行っている。共に同じ献立を食べながら、楽しい時間を共有している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調や普段の様子より主治医や家族と話しをして対応。又併設する特養の管理栄養士による勉強会を開催しながら食事のバランスに気を付けるようにしている。水分については気温、排泄などからその都度対応するように気をつけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実施。本人に合わせた声掛け又は支援に努めている。家族さんの協力を得ながらの歯科受診なども行っている。		

岐阜県 中津川市グループホームまごころ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを記録する事で職員が把握し、トイレでの排泄、排泄の自立、オムツはずしにつながるよう声掛け、支援を行っている。	利用者の重度化は避けられないが、個々の状態に合わせて、排泄の自立を支援している。おむつ用品は、利用者それぞれの頻度や量に合ったものを選択し、夜間は、安眠できるよう配慮しながら、センサーマットやポータブルトイレの使用で、支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘薬だけに頼らず、便秘によい食事を考えたり、水分不足による便秘にならないよう水分摂取の声掛け、体操の実施にて便秘予防に取り組むようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2~3回、午後の時間帯に入浴して頂いている。利用者さんからの入浴の希望があれば可能な限り対応できるようにしている。	入浴日や時間帯は、個々の希望に応じている。体調により、シャワー浴や清拭を行い、拒む人には、促し方を工夫している。浴槽に浸り、ほっと一息できるような気持ちよさが体感できるように支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の生活習慣やその日の体調に合わせて休息して頂いたり、眠れない時には飲み物を提供したりしてゆっくり眠れるよう支援に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用、用法、用量など職員が把握できる様いつでも見られるようにしており、体調にて薬が変わった時にはしばらくの間、様子記録を記入し状態の変化に気をつけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの生活で続けてきた事、できる事を活かせるよう家事への参加、縫い物、花の世話などやって頂き楽しみに繋がるようにしている。食べる事の楽しみや外出の希望など聞き気分転換になるよう支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な外出は町から離れていたり季節がら困難なこともあるが、毎月の行事の中で利用者さんからの希望により外出できる場面を計画し家族やボランティアの協力して頂き支援に努めている。又体調に応じて施設周りの散歩や畑を見たりと外にでる機会を作るようにしている。	日常は、周辺を散歩したり、畑の水やりや収穫作業などで、出来るだけ戸外に出るようにしている。年間計画では、季節の花見やイチゴ狩り、敬老会、文化祭などへ出かけ、ドライブや彼岸法要には、家族やボランティアの協力を得て、外出を支援している。	

岐阜県 中津川市グループホームまごころ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時には本人の力量に合わせ、自分で財布を持って頂き自分の買いたい物や外出時には自分で払って頂けるように支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	以前は家族さんの要望にて本人との電話などの支援もしていた。要望があれば対応していきたい。季節のお便り(年賀状や暑中見舞いなど)は積極的に支援をしている。又知人からの手紙やはがきなど本人に渡し、楽しみにつなげている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	エアコンがないので夏には扇風機、冬には床暖にて温度には注意をしている。季節の花を飾ったり季節ごとの掲示物にて季節感を感じて頂けるようにしている。	共用の間には、大きなソファーや掘ごたつのコーナーがあり、利用者がお気に入りの場所で過ごしている。居間とダイニングキッチンが対面し、陶器の触れる音には生活感がある。季節の花や飾り、掲示物を入れ替え、窓越しに、花桃の並木道が見える。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々が自由にゆっくりと過ごせるよう食堂や居間での席の工夫をしている。利用者間でトラブルが起きるような雰囲気があれば、すぐに職員間で話をし皆さんが不快な思いをしないよう対応をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が落ち着いて過ごせるよう在宅時からの馴染みの家具を持ってきて頂いたりテーブルや座布団など持ってきて頂いており使いやすいようにしている。	居室には、洗面台や押し入れ、引き戸の「物入れ」で整理整頓し、安全な空間を確保している。馴染みの家具を置き、活け花や家族の写真、ぬいぐるみなどを飾り、穏やかに安心して過ごせる工夫がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーとなっており、廊下には手すりがつけられ出来る限り安全に動きやすい工夫がされている。個々の日常の動きがスムーズにできるように情報の交換も随時している。		